

---

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時40分）

---

◇ 田 中 道 源 君

○議長（藤井要君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、田中道源君。

（1番 田中道源君 登壇）

○1番（田中道源君） それでは通告に従いまして、壇上より一般質問をさせていただきます。

まず、始めに私は議員であるとともに僧侶であります。修行しておりました京都の妙心寺の開山様がお弟子さん達に残されました御遺言にこういう言葉がございます。「汝等請う、其の本を務めよ」と。弟子たちのその本とは、修行することでございますが、本分をわきまえて、しっかり修行をなさいと、言葉を残されました。今、私はここに議員として立っておりますが、議員の本分は、地方公共団体の意思決定と執行機関を監視することでございます。その本分を全うするべく、本日も一般質問させていただきますのでよろしく願いいたします。

1つ目は、町長の政治姿勢について、2つ目は、西伊豆地区の医療について、3つ目は、伊豆トレイルジャーニー2020開催についてです。

冒頭でお伝えしました「請う、其の本を務めよ」の後にさらに言葉が続きます。「誤って葉を摘み枝を尋ねること莫くんばよし」誰のために本分を全うするのか、何のために本分を全うするのか、誤ることのないよう、心して臨ませていただきます。

それでは壇上からの一般質問はこれにて終わらせて頂きます。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 田中議員のご質問にお答えします。大きな1つ、町長の政治姿勢についての1、道の駅パーク構想はこれからどう進めて行くのか、というご質問でございます。

お答えします。道の駅パーク構想基本計画は、交流人口の拡大、地場産業の振興と住民所得の向上、歴史文化発信の場を目的に議員をはじめ地元関係者、産業関係者、まちづくり団体等の皆さんで協議を重ね、平成29年度に完成いたしました。その上で、道の駅パーク構想は、将来的な構想として今後進めていく目標であるものと考えております。ただ、財源的な

ことや社会情勢も鑑み、できることから進めていく所存であります。まずは、温泉施設、そして直売所を核とした三聖苑の整備といったように、優先順位を考慮しながら、順序立てて進めていくことが必要であると考えております。

政治姿勢の2つ目、副町長の件は、その後どうなっているのかという質問でございます。

本年5月臨時議会において、副町長の選任について、議会の同意が得られなかったことは、本当に残念でありました。私は、副町長の必要性は十分認識しておりますので、副町長の選任については、現在、思案しているところでございます。

質問の大きな2つ目、西伊豆地区の医療についての1つ、西伊豆病院の2次救急受け入れ維持の為に松崎町として、どのような支援を考えているのか、というご質問でございます。

町民の医療に対する安全・安心を確保するために、二次救急医療体制を維持していくことは大変重要なことであり、西伊豆地区においてその重要な役割を担っているのが、西伊豆健育会病院となります。西伊豆健育会病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院・外来患者数が減少し、それに伴い収入も減少し、大変厳しい状況となったため、医療体制が継続して維持できるよう、西伊豆町と協議し、9月補正において支援給付金の予算を計上させていただき、支援を行う予定であります。ご質問の二次救急医療体制については、賀茂医療圏域において下田市に事務委託をしており、二次救急医療機関である下田メディカルセンター、伊豆今井浜病院、西伊豆健育会病院、伊豆東部総合病院の4病院に対する体制の整備や運営の費用に対する補助、輪番制病院の調整・確保を図っているところであります。運営の補助金の算出については、医師、看護師など診療体制における人数や診療日数などにより、賀茂医療圏域で統一して算出をしていますので、西伊豆健育会病院だけ増額することは、すぐには難しいと考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、どの医療機関も大変厳しい状況は変わりありません。また、救急医療体制の整備については、賀茂医療圏域で設置している地域医療協議会において協議されているため、今後も、医療提供体制の確保が図られるよう要望してまいります。

3つ目の大きな質問、伊豆トレイルジャーニー2020開催について、松崎町としてどう対応していくのか、コロナ対策はどのように行うのか、ということでございます。

お答えします。伊豆トレイルジャーニー実行委員会の会長は、松崎町観光協会会長であり、会長からも今年度は新型コロナウイルスによりイレギュラーな年ではあるが、松崎発祥の大会でもあるため、開催したい旨の希望があり、町としても参加者の思いを汲んで、感染

防止徹底の上での開催を望んでおります。受入先の宿の皆さんも半分以上は賛同していると伺っておりますので、ウィズコロナのイベントとして開催したいと思っております。伊豆トレイルジャーニーの実施にあたっては、実行委員会と主催者、町とで協議を重ね、徹底した感染予防対策を施した上で開催に向けて準備を進めてまいります。例えば、参加者はもちろん、エイドスタッフや、ボランティアなどの関係者もすべて、大会前後2週間の行動記録をアプリで登録していただいた上で、参加いただくという方法を取ってまいります。100%は無いと言われる感染予防対策ですが、100%に近い対策を取り、万全を期してまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

以上で、田中議員からの質問にお答えしました。

○1番（田中道源君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○1番（田中道源君） 御答弁いただきましてありがとうございます。それでは、まず町長の政治姿勢についてのうちの、道の駅パーク構想をこれからどう進めていくのかについて質問させていただきます。

今、進めている道の駅パーク構想、平成30年の2月に出されている基本計画書の通りのものなのかどうか、ちょっと確認させていただきたいと思いますので、その通りなのかどうかお答えいただけますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 現在進めさせていただいている事業につきましては、道の駅パーク構想の一部分でございます。入浴施設そして前回休止をしておりますが、直売所の整備といった所でございます。道の駅パーク構想の基本計画という形で29年度においてワークショップを重ね製作をしたものが、その30年2月に発行されたものでございます。それに対しまして、今進めている所については、その一部分を抽出した形での執行という形になっているのが現状でございます。

○1番（田中道源君） 今のお答えでいきますと、基本的には基本計画書の一部を今進めているんだというお話でございました。私が、これまでの全員協議会であったり、話を聞いていく中で、旧依田邸の文化財施設の中にですね、カフェというか、ご飯を食べる場所がこの計画には載っているんですけども、それはしないんだというようなお話があったように記憶しているんですけども、その部分っていうのは、どうなのでしょう。当初の予定のままカフェは開く予定なのか、それとも、それはなくなったっていうのが今の流れなのか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今現時点でお答えできることにつきましては、この基本計画という構想の基本計画という形になっておりますので、今、現実にもその段階までできていないと考えられますので、今後、そのパーク構想についても、例えば、基本計画に対して、実施計画ってというのが、今後、出てくる形になってくるようにしていくべきではないかと考えておりますので、やはり、その今回の進め方についても、今後、再度ですね、地域の方々の合意形成っていうのも必要になってくるのではないかなというような時代の流れでございますので、柔軟に対応していければ宜しいかと考えております。

○1番（田中道源君） 先般、その地域の方々より料金のことについて色々な陳情等あったかなと思います。それは、午前中の一般質問の中でもございましたけれども、その一番大きな問題としては、その地元の方々ですね、そもそもこのワーキングショップ等で、進めてきた内容と違うんじゃないかと、今やってる事ってというのは、違うんじゃないかっていうことの相違が、あったんじゃないかなと思います。今やっている事業ってというのは、全体の中の一部を今進めていることであって・・・、これで最後じゃないんだよってというのがちゃんと説明できるのであれば、その時の千円っていう金額にしても納得いただけたものかもしれませんし、その、今温泉のことと直売所のことだけやれば終わりじゃないのかってというような不安を生じさせてしまったってのは、1つ一因にあるんじゃないかなと思っております。その中で、あくまで計画であって、実施計画ってというのは今後やっていく必要があるんじゃないかというお答えでしたけれども、それでは、その実施計画というの含めてですね、今後どういう風に進めていくかのスケジュール感っていうのを教えていただけますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 現時点でのスケジュール感が財政的なものと、これからの色々な社会情勢等も含めた中で、検討していく必要があるかと思っておりますので、単純に、今実際に総合計画みたいな形での立ち位置としてこのパーク構想の基本計画というのがございますので、大枠の中で地元の合意形成を図った中でこういったものがないんじゃないかっていうことで、この基本計画は立っておりますので、それを・・・この通り全て、というのがはたしてその時代時代において必要かどうかというのも勘案しながら、その時に必要と思われる事業を良いタイミングの中で、実施していくと、いった方向で考えております。

○1番（田中道源君） もちろん大きな事業でございますので、最初の予定から変わっていくことってのは、いた仕方のない部分ではあるかなと思うんですけれども、ちょっと小さな視点で見ますと、今の旧依田邸の温泉施設についてに関しまして言わせていただきますと、当初ですね、これ去年の臨時議会で、温泉施設を作るんだっていう時に5千万程の補正予算を組ま

せていただいて、それ通させていだいたんですけれども、その時のお話としては、もうこれ以上の費用はかからないんだっていうもとで進んできました。すぐその後に、また、臨時的補正予算ってのが生まれ、それおかしいじゃないかっていう中で、500万だったかなと思いますけど、そこを話が違うんじゃないかと言って、否決しましたところ、巷からですね、「あなた方が反対したおかげで、過疎債使えなくて、その500万円分は、あなた方が出すんですか。」なんていうふうにお叱りの言葉頂いたこともございます。そんな中でですね、その今回また補正予算が上がってきてるんですけども、1,200万円ほどの補正予算が上がってきていますが、一番最初に、これをあげてくることができたものじゃないかなと思います。中には工事をしたからこそ、わかってきたものっていうのもあると思いますけども、今回、電子制御盤でしょうか、今回の工事があって初めて設置するって言った電子制御盤が、実際に今年度になってみたら、自動でできないと困るってことで、新たにまた上がってきているわけでございます。この計画の仕方っていうのは、やはり、行き当たりばったりという声がありましたけれども、その通りだなと思いますし、この1,200万、過疎債使わずにですね、一般財源から出していくという話を聞いておりますけども、一番最初に去年ですね、500万円を否決した時にはもの凄い怒られたわけですけども、今回、1,200万出してくる、当局としては、そこについてのお気持ちというのをどういう風に捉えてるのか、教えていただけますでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 午前中ですか、鈴木議員の御質問にもお答えしましたけれども、当然、当初の時にある程度全て見込んだ計画のもとに事業を立てて、進めばいろんな財源の工面はあるということ申し上げました。確かに、その通りで、あるわけですけども、今回につきましては、なるべく、今、既存のもの使っていくという中で、やはり、経年劣化によるそういった不測の事態、そういったことがなかなか当初のところで、見抜けなくて途中で補正をせざるを得ないということは・・・、そこは、ご理解いただきたいなと思います。ただ、今、言ったように、当初のところで、やはり、そういったしっかりした、全て見込んだ計画を作れば、財政負担の軽減に繋がったということは、ごもっとも、ご指摘のとおりでありますので、そこで十分反省したいと思います。

○1番（田中道源君） 本当にですね、こちらは議会としても大切な血税を使っの予算を通すわけでございますからしっかりとこちらも審議しなきゃいけないと思っておりますし、計画する方もですね、この皆さんから集めた大切な税金を使っているという覚悟を持ってですね、計画を作っいただきたいなと思います。やはり、誰のためにやるのか、何のためにや

るのが、一番大事なことでありますので、結果だけとりあえずハコモノだけでできればいいよってものではやはりないと思いますので、十分審議した上でお願いしたいと思います。

今現在ですけれども、道の駅の方であります、直売所の件でございますが、去年のやはり臨時議会で、否決されてからその後どういう風に・・・、その話というのが進んでいるのか。休止中というふうなお答えをいただいておりますけれども、休止中の裏でそれについてどのような計画が検討されているのか教えていただけますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 現在休止中ということで、そこについては今動いてはおりません。動いていないのが現状でございます。それにつきましては、今後直売所中心とした三聖苑の整備という所を考えていかなければならないというのがありますが、先ほども申し上げました通り、地域との合意形成も必要になってきますし、やはり、最初の目的である、産業の振興、交流人口の拡大、歴史文化発信の場等々、色々な目的に沿ったものをしっかりと鑑みながら建てていきたいと思っております。今、大浴場の方を整備してる中で、今の現状でうちの方の職員の中では、1つ1つ丁寧にやっていくしかございませんので、そういった中で、またその時を・・・、スケジュール感を今もう一度・・・、先ほどの質問にもありましたけれども、立てながらですね、進めてまいりたいと考えております。

○1番（田中道源君） 地域の合意形成っていうのは、ものすごく大事なことだなと思います。これまでの・・・、去年のですね、3月の時までのワーキンググループというものを行ってございまして、この道の駅の方ですね・・・、地域の合意形成というものをずっと図ってきて、その中では話がちゃんと進んでるんだよというご答弁を町長から頂いてたかなと思うんですけど、私らが聞いていた・・・、その時にお話ししたかと思っておりますけれども、ワーキンググループで出ている話と、進めようとしていることに乖離があると・・・、こちらの出している意見というのは、ほとんど聞いてもらえないし、反映されてないよ、っていうような声を私は聞いておりました。今後、進めようとしている合意形成というものは、また同じような形ですね、形だけやったけども、何もその中で、有意義な会議というか、内容が反映されないようなものであっては、意味の無いものになるのかな・・・、と思うんですけど、その運営については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（藤井 要君） 誰に、町長にですか、質問は・・・。

○1番（田中道源君） どちらでも・・・、担当の方でも・・・。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今、おっしゃる通りですね、合意形成という部分が、大切になってくると思います。それには、まず地域における施設のあり方というものを、もう一

度、今の時代の中で検討しながら立て直していかなければいけないと考えております。ただ、今できることというの、先ほど申し上げましたけども、ゴールであるパーク構想の実施計画等々がこれからも考えていかなければいけないと思ってるんですけども、そういったものをしっかり立てた上でそこに向かって、どう進んでいくかという部分を、ソフトの部分で検討していく必要があると思っております。ですので、今回、コロナの関係でいろんな事業も先送りになっておりますので、ちょっと、時間をかけた中で、しっかりとしたものを後で、やはり後悔のないものをそして、先ほども、何度もおっしゃっているとおり、人のお金、大事な血税でございますので、やはり、きちんとした説明のつくような使い方をするべきだと考えております。

○1番（田中道源君） それではですね、もちろんその覚悟というか、考え方はわかりまして、聞いて良かったなと思います。それではですね、町長の任期というものが後1年ちょっととなつてまいりました。その中で、この道の駅パーク構想に関してのこの任期中どこまで進めるよつていう腹づもりと言いますか・・・、ものがあれば教えていただきたいな、と思います。このまま、時間は確かにかかりますし、コロナの関係等もある中で、任期中はもう無理なんだよつていう考えでいるのか、それとも、その任期中にここまでは、実現するよつていう、そこのお考えを教えてくださいませんか。

○町長（長嶋精一君） 大変、難しい質問でございますが、私は道の駅直売所は絶対、この松崎町において必要だと思っております。従つて、私の任期中にどこまでやるかということはここでは、差し控えさせていただきますけれども、いずれにしろ、道の駅直売所は作りたいという気持ちでもつて進めて参りたいと思います。いつ、何時、令和何年の何月に上程するというようなことは言えませんけれども、そこら辺はしっかりと関係者と話し合いながらやつてまいりたいと思います。そして、前のワーキンググループの時もね、まったくその何も・・・、話が通じないとか、我々の話が聞いてもらえなかったということは、今、田中議員がおっしゃいましたけれど、それを、何も僕の方で反論しないと、本当にそうだったという事になつちやいます。じゃなくて色んな話は、聞き入れました。ただし、全ての話は聞き入れるわけにはいきませんので、そこら辺は取捨選択させていただきましたけれどもね、話を聞いて、補正予算で増額したようなこともございました。したがつて、それは両面からね、是非、聞いていただきたいと、このように思います。道の駅の直売所は私としては今後の松崎町にとって、必ずや必要だと思っております。以上です。

○1番（田中道源君） 任期中いつまでという答えはできないよつてということで、お答えいただ

きまして、分かりました。直売所の件の時にですね、町長の出してきた、直売所の件、否決をされたが故に、今進んでないわけでございますけども、なぜ、あれが否決になったのか、なぜ、進めることができなかつたのかということについては、どのように検証されているのかを聞きたいなと思います。

○町長（長嶋精一君） それもまた、非常にたくさん要因があるんでしょうけれども、賛成された議員もおられますし、反対した議員もおられるということで、結果的には賛成した議員が少なかったということで非常に残念でした。今、言える事は、そういうことです。いろんな人のね、考え方っていうのがあるんですね。どれが正しいかっていうのは、ずっと後の歴史で評価されるわけです。私は最善だと思って上げたわけですけども、それが、いろんな方においては最善ではないということでもございましたので、その結果については、今、どうこう言うつもりはございませんが、今度やるとしたならば、しっかりとして関係各位、議員の皆さん方とも話し合いをしながら進めてまいりたいなと思います。決して、独断専行で、やったわけではございません。私は、独断専行というイメージが、どういうわけかついてしまったんですけども、独断専行で物事が決まるわけではございませんので、皆さんといろいろ協議をしながら話を進めてまいりたいと。ですから、そこら辺は虚心坦懐にね、やってまいりたいなと思います。

○1番（田中道源君） ちょっとあの時間をだいぶ取ってしまってあれなんですけど、最後にこの件に関してちょっと確認しておきたいことがあります。ちょっと巷でですね、小耳に挟んだ所でございますけども、町長は議会が反対しているから進めることができないんだというふうに説明をしているというふうに聞きました。今のご答弁の中では、必ずしもそういうふうにはおっしゃってなかったと思うんですけども、やはり、直すべき所は直すっていうような考えなんだろうなと思うもので、今のご答弁としては、安心いたしましたけれども、改めて、ちょっと確認させて頂きたいんですが、やはり、反対されるに値するだけの計画だったということで、今、否決されたんだよという事でいいでしょうか。それともやはり反対する議員がいたからできなかった。この否決された原因っていうのが、計画自体に問題があったのか、それとも、議員の方、議会の方に問題があったのかっていう所について、町長の気持ちを教えていただけますでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 田中議員のご質問はあくまでも町長とその考え方を白黒つけたいというようなところから立脚してるような感じがしますが、これはもう、私としても進め方としてね、独断専行じゃなくて、いろんな方のご意見を聞きながらやっていこうという事を



さっき言いました。ただし、自分の町長としての考え方、コンセプトがあります。それはこの松崎町の伝統文化、それらと合致する、依田勉三翁、依田家とも合致する。そういうものがやっぱりあらわれていないと私は上手くは行かないと思います。それで、何でしたっけか・・・、他の質問は・・・。

○議長（藤井 要君） 町長、座ってください。田中君、もう一度。

○1番（田中道源君） はい、私が聞きたいのは、この前の否決された原因というのは、計画そのものが問題だったのか、それとも議会のメンバーが問題だったのか、そこの所の町長の認識というものを確認させていただきたかったです。巷でそんなことをですね、ちょっと小耳に挟んだものですから、町長の本当の所、どういうふうに考えてるのか教えていただきたいなと思ったわけです。以上です。

○町長（長嶋精一君） いろんな方からですね、いろんなお話があるでしょう。私も議会が反対したから、これが駄目になったよと、というようなことで言っただけでいいわけではございません。そして、また議会の皆さんも、町長はああだ、こうだ、というようなことは聞いておると思います。ですから万人に全て満足していただくということにはできないと思います。そこで、私としては、道の駅の直売所の発端が間違っていたとは、思っておりません。しかし、もっといろんな人の考え方もね、聞いて、広くやっておけばよかったかなというそういう反省はございます。それを今後活かしていきたい。自分の任期、任期でないに関わらず、これは僕の数十年前からの三聖苑の活用方法ですので、かなりの思い入れがあるものですから、それについては幅広く、人様の話を聞きながらね、柔軟にやってみようと思っております。

○1番（田中道源君） ありがとうございます。先ほどのお話の中でもありましたように、任期中にいつまでということは、申し上げることはできない。しかも、これからですね、いろんな方々のお話を聞きながら、進めていきたいということでございますので、是非そのように進めていただきたいと思いますし、ちょうど一年ちょっとした時にはですね、町長任期が切れまして、選挙となります。その時に、また、どうしてもこの三聖苑を作るんだ、直売所作りたいたっていう所で、公約をあげてくるかなと思うんですけど、その時の議員は今と同じメンバーでございます。ですので、議員がどうかっていう事で、また同じ案を上げてくるとすると、これはおそらく通らない話になりますので、やはり、何が問題だったのかという所をしっかりとつめていただいてですね、この大切な事業を進めていただけるよう一つお願いしたいなと思います。

続きましてですね、副町長の件についてその後どうなっていますかという質問に関しては、思案をしているということでございましたので、ちょっと、ご確認させて頂きたいんですけども、臨時議会ですね、副町長の議案が否決されたその時のお話として、町長から自分の給料の半分の分と、副町長の給料分を使ってコロナ対策をしていくっていう風なお話があったかなと思うんですけども、その、コロナ対策に使っていかうという件につきましては、どのような対策に繋がっているのか教えていただけますでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 副町長を置かないということで、今、現に置いてないわけですけども、その間の予算については、一応予算上には載せてありますけれども、執行はしていないわけですね、いないという事ですので。ですので、実際に今予算として支出してないっていう額、これが年間約1千万ぐらいの金額になるわけでございます、通常、4月からこの予算においては年間の1千万円については副町長置いてないもんですから、予算としては、支出していないものですから、ある意味別の所といいますか、いろんな政策に使える予算と、お金だということでご理解ください。

○1番（田中道源君） そうしますと、他の所に使うからには、その他の所に使う時に予算ってのは計上されてくることになると思います。じゃあ、その財源どうするんだって時に、今まであったものから減らしましたっていう補正予算っていうのが上がってくるかなと思うんですけども、今回、補正予算として副町長の件、削除されたっていう形跡がありません。無いと思います。無い中で、それを他の所に使っているって言い方はちょっと、やっぱりおかしいのかなと思うんですけど、その辺いかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 町長は回答では、現在思案している所と、思い巡らせているということでご回答したと思ったんですけども、そういった事でまだ副町長の件については、今そういったことでありますので、ここで予算を減額してということは、それは、今の町長の考えと矛盾することになりますので、その所については、まあ、今、思案しているという段階を踏まえて、予算としては減額しなかった。まして条例も・・・、副町長置かない条例も制定はしておりません。

○1番（田中道源君） そういうことでありましたら、今も副町長を置くつもりであり、探しているんだということで、今、受け止めましたけれども、であるならばですね、副町長が否決された時の最後のお話で、その分のお金を使ってコロナの対策できるよと、そうだ、そうだみたいな雰囲気ではなっておりましたけども、それって、やってる事と言っている事が違うことだと思うので、そういう誤解の無いようにですね、町民の方々が誤解を招くよう

な事のないような発言というものに気をつけていただきたいなと思います。一応この町長の政治姿勢につきましては、この辺にさせていただきたいなと思います。

それでは次ですね、西伊豆地区の医療についてということでございまして、先般、コロナの影響により収益が著しく下がりました西伊豆健育会病院に対してですね、補助金を出すこととなりました。また町内の医療機関の方々にも補助を出すということで、大変ありがたい事だなと思っております。さて、このコロナの関係の中で、浮かび上がってきた課題としましてですね、二次救急のことを今回問題として挙げさせていただいているんですけども・・・、現状としましては二次救急は、この西伊豆地区においてはですね、西伊豆病院さん、西伊豆健育会病院さんが一手に引き受けているわけでございます。でも、この救急というものはそもそも収益的に赤字部門だと聞いておりますけれども、それを西伊豆病院さんが引き受けてくれている中で、この松崎町としてどういう支援を考えているのかっていう中で、先ほどのお答えとしましては、賀茂の協議会というものがあるからそちらに任せているよ、というお答えだったかと思うんですけども、そちらの協議会に任せているから町としては、タッチしてないよっていうような認識で合ってますでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） タッチをしていないというわけではなくて、その協議会にも当然、私たちも参加をしておりますので、そうした中でこういう厳しい状況だよというような所は以前から課題として上っているかと思っておりますので、それを引き続き要望していくというような形になると思います。

○1番（田中道源君） たとえば今回は、コロナの関係で減収になった分を補填してくれという、比較的分かりやすい話として、相談があったから対応もできたかなと思うんですけども、二次救急の方で、どれほどの負担を西伊豆健育会病院がしているのか、またこのくらいの負担が見てもらえたらありがたいよっていうようなことの・・・、いわゆる現状把握みたいなものはされているのでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） 申し訳ございません、私が担当になってからですね、その医療の方の、協議会の方は開催されていないものですから、具体的にはどういうふうな形で協議会の方が把握をしているかというのは、ちょっと分からない所があるわけですけども、その補助金の算出の方法としましては、例えば休日の昼間であったり、夜間の診療であったりということで医師が何人必要だよとか、それに対する看護師が何人必要だよと、というような人数を算出をして人数の必要経費ですね、そちらの方を算出をしながらですね、1回あたりの単価を決めて受けてもらう回数をかけて算出をして、補助金として算出をしているという

ような形ですので、一応、その医師とか看護師を確保するために、基本の単価を算出しているということで、一応説明のほうは・・・、負担金の方の算出はされているということでございます。

- 1番（田中道源君） 賀茂の協議会ってものを中心・・・、中心というか、そちらの方で話し合いはするとしても、そういう算出の仕方であったり・・・ことはしているんだって、いうことは聞いて良かったなと思います。一応ですね、私の調べましたところ、西伊豆病院クラスの、クラスというか・・・、その同程度ですね、救急をされている病院がお医者さん、来ても、ようは患者さんが来ても来なくても、確保しておかなければいけない、お医者さんの人件費というものが、だいたい月に200万円ぐらいなんだそうです。もちろん、この負担というのを、賀茂の協議会って所で考えていくことなんだと思いますけれども、協議会は1市5町で考えていることだと思いますけども、特にこの西伊豆地区におきましては、西伊豆病院ってものがなくなった時っての、リスクってのが・・・、例えばメディカルがあるからいいよとか、今井浜があるから大丈夫という以上ですね、ちょっと、特殊な状況の病院なのかなと思います。もし、西伊豆病院がなくなってしまうと救急で運ぶとなるとメディカルまでが40分ぐらいです。この役場からですね。その助かる命も助からなくなってしまうかもしれないという意味では、協議会っていうのはもちろん当然大事でございますけれども、この西伊豆地区、西伊豆町と松崎町にとっては特殊な事情としてどうしても残しとかなきゃいけないものだと思いますので、そういう観点でですね、情報等密に取っていただいて、今後のですね、維持管理っていうものを考えていただきたいなと思います。そんな中ですね、大体月に200万ぐらい、それが協議会の負担と合わせてどのくらいになるかっていうのは正直いくらっていうのは出ませんけれども、今進めております岩科診療所の方、大体これもはっきりした金額ではありませんけれども、一番最新の情報の中で大体年間1,500万位で5年間で7,500万円の赤字補填をしていくよってというような計画だったかなと思います。まだ協定書ってのは、はっきり定まっておられませんけれども、一番最後に話あった時の金額ってのが、そのぐらいだったかと思うんですけども、年間で1,500万円を補填して岩科診療所を作るっていうことも、町の負担として出てくることですが、それと西伊豆病院の、この二次救急の方でこれからもしかしたらかかるかもしれないっていう負担が生じてくるって時に、どちらか選ばなきゃいけないよと、この松崎町の財政の中ではどちらか絞らなきゃいけないよって場合、最悪二者択一ってなった場合は、どちらを選ぶかっていうのをちょっと教えていただけますか。じゃあ、町長お願いします。

○町長（長嶋精一君） 二者択一という、非常に極端な御質問だと思います。どちらを、無視するということは、私としては、今話すということではできません。いずれにしろ、西伊豆病院は、健育会病院は、必要であります。私も来られた患者は断らない、24時間患者さんを守るという姿勢はですね、大変貴重だと思います。ですから、24時間救急病院を看板を外すということは、我々にとっても困る。従って、これは松崎町だけの問題ではありません。西伊豆町ともよく相談しながらね、どういう風な援助ができるのかと、いうようなことは検討しなければいけないと思います。そして、あくまでも、西伊豆健育会病院が主体ですから、こうしていただけませんか、現在はこういう状況になっております。売上というか、診療報酬の収入がこれだけ、これで従業員あるいは看護師さん、24時間受け入れ体制というのはお医者さんも看護師さんもいるということ、従って非常に高コストな組織になっていると思います。そこらへんをどうするのかということですね。そして、何で二者択一で、私はできないかと言うと、そもそもが岩科診療所を設置しようと思ったのは、津波浸水区域外だからであります。今、松崎町内には、2つお医者さんがあります。診療所あります。その前には3つありました。その1つは、高齢化でもって辞めました。そして、今残っているのが2つ・・・この2つは町内の津波浸水区域内にあるのですね。万が一津波が来た場合は、町内は非常に傷んでしまってお医者さんも機能を発揮することはできないでしょう。従って、私の方は、津波浸水区域外の岩科診療所が・・・、ということで、進んできているわけでありますから、ここは財務的な面だとか・・・、だけで判断する訳には私は行かないんですね、のちのち、町民が安心安全を味わうかどうかということ、それこそ歴史が証明してくれます。私はあくまでも当面の財務面だけではなくて・・・、高齢化の激しい町であります。したがって、どっちが大事でこっちが必要ないとか・・・、ということは考えておりません。

○議長（藤井 要君） 田中君に申し上げます。残り時間、延長あわせて6分になりましたのでその中で・・・。

（○1番（田中道源君） 「延長お願いします。」）

○議長（藤井 要君） 延長あわせて6分、よろしく申し上げます。

○1番（田中道源君） ちょっと、岩科診療所の件を、お話をさせていただいたこととしましては、もちろん、簡単にですね、財政面のことで話せるようなことではないと思いますので、いろんな側面からしっかりとそっちの方も進めていただきたいなという含みを込めて言わせていただきました。ちなみにですね、もし西伊豆病院がなくなってしまうと、二次救急がこの西伊豆地区になくなってしまったとしますと、西伊豆町にも松崎町にも宿泊業っての

がたくさんございます。でも業者の方々がツアーを組んだりとか、お客さんを案内するよって時に、凄い近場にですね、救急がない所ってのは選定から外れるそうでございますので、そういった所も踏まえて、本当に必要なものがなんなのかっていう議論を診療所の件の方で進めていっていただきたいなと思います。

それでは最後に、本当に時間が無くなってしまいましたので、3番の伊豆トレイルジャーニー2020の開催についてなんですが、松崎町としては望んでいるということで、大変うれしいなと、町長からそういう風に言って頂けたことはありがたいことだなと思っております。と申しますのも、いまご存知の通りコロナの関係でですね、いろんなイベント等が中止になったり自粛したりしております。その中で、開こうっていう、この実行委員会も素晴らしいと思いますし、このイベントに参加しようっていう参加者は、いろんなこのリスクを背負いながらも、大変な行動管理されるっていうの承知の上で参加してくれる、この伊豆を大好きだからだと、思ってくれる優良なお客さんだろうなと思います。その人達が、やっぱり今年も開催してくれるんだって事に、うちも望んでいるよと言ってくれた町長の一言というのは、本当に僕としてもうれしい事だなと思う中でですね、そのコロナ対策というものをしっかりやってほしいよ、やると言っておりましたので、それも是非やってほしいなと思います。そこで1点ちょっと確認したい点がございまして、私もあの実行委員会にオブザーバーとして参加させていただいた時に、西伊豆町のご担当者の方からですね、質問があったんですが、スタート時の密になる所の工夫というのは、どういうふうに考えられてるのかっていうことを質問されておりました。やはり、もっともな質問でありましたし、開催するにあたってここは避けて通れないとこかなと思うんですけど、それについてどのような対応を考えているのか教えていただけますか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 現在主催である会社の方と実行委員会と協議をしております、まず段階としましては、今コースの設定を早急に今進めているところでございます。スタート時におけるその質問についてですけれども、原則接触感染、若しくは飛沫感染ということがコロナウイルスではありますので、今回、サイレントスタートというか、静かなスタートという所と、ソーシャルディスタンスについても基本的には、接触をできるだけ避けるといったようなこと、進めるというようなことで今、概略は進んでおります。で、先ほども申し上げました通り、開催前後2週間の行動記録、及びそういった生活様式ですね、新しい生活様式の中で、きちんと約束を守っていただいた上での参加という形を、対策として取らせて頂きます。今、現状、観光客につきましては、そこまでどこもやれてない状況の中で、

今回、そういう覚悟を持って町と実行委員会で進めるという方向になっていますので、ここは参加者の方にも、きちんと責任を持っていただいた中で、今回のイベントを成功させていきたいと考えております。一番大事なのは今おっしゃったとおり、来る方々も自己責任の中で感染対策をすると、一人一人の責任の中でこういったイベントができるということ、1つの素晴らしい事例になるんじゃないかと思って、今そういう事、細かいところも含め進めていくことで進めています。

- 1番（田中道源君） ありがとうございます。大変この・・・、松崎町の未来にとって大きな大きな一歩になる事業だと思いますので、是非お願いしたいと同時にですね、受け入れる側というか、この町民の皆様も安心してですね、受け入れられるような・・・、こういう対策しているから大丈夫だよっていう所を、是非よろしくお願いします。やることはとても大事なことでございますけれども、それと同時に、これだけの対策してるから安心だよっていうものを町民の方々にも不安を感じさせないような運営をしていただけたらなと思います。

最後にまとめさせていただきますけれども、全ての事業、何のために私たちがやっているのか、誰のためにやってるのかってことがすごく大事だと思いますので、「誤って葉を摘み枝を尋ねること莫くんばよし」というようなことになりますようお互いに、私も協力いたしますのでよろしく願いいたします。

それでは一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

- 議長（藤井 要君） 以上で田中道源君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 2時36分）

---